

# 公共事業事前評価調書（事前評価2）

## 資料8

令和5年1月11日現在

### 【事業概要】

事業名	ボートレース若松施設整備事業				
事業箇所	北九州市若松区赤岩町13番1号	事業期間	令和2年度～10年度		
事業費 (百万円)	6,950	国庫補助 事業区分			
関連計画	北九州市公営競技事業経営 戦略	関連事業			
実施主体	市（公営競技局）	事業担当課	公営競技局ボートレース事業課 Tel：791-3400		
都市計画決定 (変更)の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無	過去の都決 年度	H 年度	今後の都決 (変更)予定年度	H 年度
事業目的	<p>公営競技局では、ボートレース事業を実施し、その収益金の一部を一般会計に繰り出し、市民生活の充実・利便性の向上等に寄与しているところである。今後も事業の継続を行い、将来にわたり安定的に収益金を確保し、本市のまちづくりに貢献していくためには、ボートレース事業の基盤となるボートレース場の計画的な改修が必要となる。加えて、ボートレース事業の公益性を発信し、イメージアップを図り、ボートレース事業に対する市民理解の促進に取り組んでいくことも重要となる。</p> <p>本事業は、築26年が経過し、老朽化した西スタンド棟を大規模改修するとともに、ボートレース若松（以下「本場」という。）を地域から必要とされるボートレース場へ転換する、いわゆるボートレースパーク化※1を図ることによって、経営戦略に掲げる3つの将来像※2の同時実現を目指すものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西スタンド棟を改修することで、来場者の安全確保と合理的な維持管理を目指す。</li> <li>○ また改修にあわせ快適な観戦ができる環境を整備することで、既存ファンの定着と新たなファン層を開拓する機能を強化し、本場の集客力を高める。</li> <li>○ SGやGIなどのグレードの高いレース開催日以外は遊休スペース化している駐車場を、市民の憩いの場であり、気軽に利用できる地域貢献エリアとして整備することで、本場のイメージアップとボートレース事業に対する市民理解を促進する。</li> </ul> <p>※1 ボートレース場を子供たちの健全な育成と世代間交流</p>				事業分類
					IV
					(本事業は老朽化した施設の改修であることと、地域貢献施設の新設であることから、対象部分単体で考えた場合、収益を求めたものではないため)

	<p>ができるコミュニティの拠点として、地域との共生を目指すもの。本場活性化策として、ボートレース業界全体が「モーヴィ」「グリーン」という名称での整備を推進している。</p> <p>※2 将来像Ⅰ【売上】 選ばれるレース場  将来像Ⅱ【運営・財務】 健全な運営・信頼されるレース場  将来像Ⅲ【地域・社会貢献】 親しまれるレース場</p>	
<p>事業内容</p>	<p>1 西スタンド棟他の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選手や来場者の安全を確保するため、施設の老朽部分を改修する。</li> <li>○ 既存ファンのニーズに応えるエリアを整備する。</li> <li>○ 女性や若者、ファミリー、カップル等、新たなファン層を開拓するため、快適さや開放感を演出した有料席等のエリアを整備し、ボートレースの新しい楽しみ方を提案する。</li> <li>○ イベントホール及び中央入場口を、ワクワク感を演出する新しい顔と位置づけ、内部については音響改善や地域開放促進の観点から改修する。</li> </ul> <p>2 地域貢献エリアの新設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもから大人まで気軽に遊ぶことができるよう、本場活性化としてボートレース業界全体が整備を推進している「モーヴィ」「グリーン」という名称で地域貢献エリアを、東スタンド棟前の駐車場約 10,000 m<sup>2</sup>の敷地を活用して整備する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親子連れで楽しめる屋内施設（現外向発売所を改修）、屋外施設（遊具の新設等）の「モーヴィ」として整備する。</li> <li>・ イベントやレクリエーション利用が可能な多目的広場を整備するとともに飲食や休憩用施設も併せて新設し、「グリーン」として整備する。</li> </ul> </li> </ul>	
<p>事業実施の背景（社会経済情勢、これまでの経緯）</p>	<p>1 西スタンド棟の老朽化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近年施設の老朽化に伴い、屋根材の脱落、雨漏り、鳥害などの不具合もひどくなっており、運営しながらの修繕では追いつかない状況である。</li> </ul> <p>2 本場入場者数の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 良好な経営状況であるが、広域発売が好調な一方、本場入場者数は大きく減少し、この傾向は本市だけではなく全国的な傾向となっている。</li> <li>○ 本場入場者数の減少は、これまで本場が担ってきた新規ファンの創出機能が低下していることを意味し、将来の事業継続の面で大きな課題となっている。</li> <li>○ 今後の新規ファン獲得のためには、ボートレース場に来場いただき、実際にライブでレースを観戦し、ボートレースの魅力を経験してもらうレース場として、本場の魅力アップと活性化を進めることが求められている。</li> </ul>	

### 3 良好な経営状況

- 本市ボートレース事業の年間発売額は、一時期の落ち込みから回復し、平成25年度以降は、電話投票及び場外発売といった広域発売の拡大の進展に伴い毎年度600億円以上を売り上げ、令和3年度の決算では過去最高の1,383億円を記録し、好調期に入っている。
- 年間発売額の拡大によって、収益も安定的に確保できており、平成30年度の地方公営企業化以降、純利益、単年度資金剰余、累積資金剰余いずれも黒字である。
- 一般会計繰出金も平成20年度から再開し、直近5ヶ年は以下のとおり、本市財政に貢献しているところである。

H29 : 35億円                  H30 : 15億円                  R1 : 15億円  
 R2 : 26億円                  R3 : 50億円                  R4(予算) : 50億円

- 本事業については、一般財源の負担は生じない。

### 4 ボートレース若松の経営戦略とボートレース業界全体の取組み

- 公営競技局では、平成30年4月の地方公営企業へ移行後、中長期的な視野も踏まえた経営を行っていくため、平成31年3月に「経営戦略」を策定し、3つの目指すべき将来像を掲げた。
- 経営戦略の策定にあたっては、ボートレース業界全体で推進するボートレースパーク化が本場の活性化による将来を見据えた持続可能な戦略であることを踏まえ、全ての将来像を横断する主要な取組として位置付けている。

将来像Ⅰ 【売上】	選ばれるレース場	売上を確保していくためには、若松の舟券をボートレースファンに買っていただくこと、BR若松に足を運んでいただくこと等が重要	ボート レース パーク化
将来像Ⅱ 【運営・財務】	健全な運営・信頼されるレース場	本市収益事業としての責務を果たす業務運営・財務運営	
将来像Ⅲ 【地域・社会貢献】	親しまれるレース場	将来にわたりBR事業を持続させるには、事業のイメージアップと市民理解の促進が不可欠	

- BOATRACE 振興会では「ボートレース場パーク化に係る本場活性化事業（以下モーヴィ）」「ボートレース場コミュニティパーク化活性化事業（以下グリーン）」という事業を掲げており、現在この助成金を活用できる時期である。

「モーヴィ」ではレース場内のイメージアップや地域に貢献できる施策を行うことを目的とし、ボートレース場内に遊具や玩具などを設置することにより、1億円を限度額として、また、「グリーン」ではボートレース場敷地内に「子供たちの健全な育成と老若男女問わず世代間交流ができるコミュニティの拠点」として、芝生広場や植樹、多目的施設の設置をすることにより、2億円を限度額として、BOATRACE 振興会が事業費を負担する。

事業 スケジュール	令和2年度	～	令和3年度上半期	:	基本計画、事前評価1		
	令和3年度下半期	～	令和5年度	:	基本設計、事前評価2		
	令和5年度	～		:	実施設計（施設ごとに設計）		
	令和6年度	～		:	順次、工事着手		
	令和7年度	～		:	地域貢献エリア供用開始		
	令和10年度			:	西スタンド棟他供用開始		
事業の 目標	成果指標名		基準 年次	基準値	目標年次	目標値	
	目標 1	1日当たりの本場入場者数	R元 年度	930人	R13 年度	1,200人	
		【指標設定理由】 西スタンド棟を改修することで、既存ファンの定着と新規ファン層（女性や若者、ファミリー、カップル等、新たなファン層）の拡大を図り、本場来場者を増加する。 目標値は、西スタンド棟供用開始3年後に基準値の約30%アップとする。（普通開催）					
	目標 2	地域貢献エリア年間来場者数	R元 年度	延べ55,000人	R8 年度	延べ 150,000人	
		【指標設定理由】 舟券購入以外の目的でも、子どもから大人まで、特に親子連れが気軽に安心して遊べる地域貢献エリアを新設することで、ボートレース場のイメージチェンジを行い、新たな賑わい拠点を目指す。 目標値は、現在の親子連れで楽しめる屋内施設（わかわくらんど、ボルダリングパーク）の年間利用者数を基準値として、地域貢献エリア供用開始後に約3倍とする。					
	目標 3	ボートレース若松イメージ調査 （気軽に行きやすい）	H30 年度	71% 15%	R13 年度	90% 90%	
【指標設定理由】 ボートレースパーク化により、舟券購入以外の目的でも気軽に遊びに行きたい場所を目指す。 目標値は、イメージ調査で舟券購入経験者（基準値の上段）、未経験者（基準値の下段）ともに、西スタンド棟供用開始3年後の調査で90%とする。							
コスト	合計（百万円）	～R2	R3	R4	R5	R6	R7～
事業費	6,950	21	33	26	200	610	6,060
西スタンド棟							
他の改修	5,627	21	33	7	158	105	5,303
地域貢献 エリアの新設	1,323	0	0	19	42	505	757
財源 内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他	6,950	21	33	26	200	610



管理・運営計画	管理運営方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>西スタンド棟の管理運営は直営である。エレベーター、警備、清掃等の業務を委託により行う。</li> <li>地域貢献エリアの管理運営は直営である。具体的な委託範囲等については、今後検討を行う。</li> </ul>			
	管理運営コスト 収支予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>西スタンド棟については、現在と同程度のコストを想定している。</li> <li>地域貢献エリアについては、地域への貢献を目的としており、単体での収支は赤字を想定しているが、ボートレース事業のイメージアップにつながる PR 費用という位置づけと考えている。また、施設整備を行うことにより、SG などの大きなレースの誘致も有利なものとなり、収益増につながるものである。</li> </ul>			
費用 便 益 分 析	費用項目 (C)		便益項目 (B)		
	費用計		便益計		B/C

### 【評価結果】

評価項目及び評価のポイント				
1 事業の必要性				
(1) 現状と課題		配点	評価レベル	得点
生活利便性 安全性の向上	①地域の現状・課題を十分検証し、的確に把握しているか (全ての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較) ②それらの課題は、地域・市にとってどの程度必要と考えられるか(課題を解決しない場合に生じる影響の度合い)	-	-	-
地域経済の活性化 産業振興	③利用者・市民の要望を正確に把握し、需要を詳細に分析しているか(要望書の有無、協議会の設立状況等) ④公共事業以外の代替手段はないのか(ソフト施策、市・民間の類似施設の活用状況等) ⑤市の計画との関連はあるか(計画の進捗状況、今後の予定等)	15	5	15
【評価内容】				
① 事業の現状、課題 ②問題を解決しない場合に生じる影響				
1 西スタンド棟の老朽化				
西スタンド棟は平成8年度の新設後 26 年が経過し、老朽化が進んでいる。問題を解決しない場合、年間20万人にも及ぶ来場者の安全性及び快適性を確保できない。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>外壁の落下などによる安全性の低下</li> <li>雨漏りや内装の劣化等による快適性の低下</li> </ul>				
2 保有資産の未活用				
有料席の一部に未使用エリアが存在すること。				
また入場者数の減少に伴い、駐車場の利用状況は繁忙期で半分程度、G I 開催時でさえ				

2 / 3 程度の利用状況であり、遊休スペースの有効活用が課題である。

400台分の駐車スペースを地域貢献エリアに有効活用した場合、駐車場利用率の向上が図られるとともに、駐車場不足は生じない見込み。

	駐車台数	通常時		繁忙期		G I 開催時	
		利用台数	利用率	利用台数	利用率	利用台数	利用率
現 状	2,400	800	33%	1,200	50%	1,600	67%
地域貢献エリア新設後	2,000	900	45%	1,400	70%	1,800	90%

### ③利用者の要望

#### 1 ファンニーズ

現在の西スタンド棟は、ファンのニーズとミスマッチな環境である。改修の際には、既存ファンの定着を図るとともに、新規ファン層を呼び込む魅力を付加する必要がある。

#### ○ ファンのニーズとミスマッチな観戦環境

- ・ 有料席の魅力低下
- ・ 中央入場口等の近寄りづらいイメージ
- ・ 女性や若者、ファミリー、カップル等への対応エリアなし など

#### 2 地域貢献及びイメージアップの拡充

これまで、小学生までを対象とした屋内遊戯施設や地域活動等で利用できる地域交流施設を整備し、地域貢献を通じたイメージアップに取り組んでいる。今後、地域の要望を踏まえ、より幅広い世代に対応した地域貢献活動を行うことで、ボートレースの公益性を更に発信する。

また、広域発売が進展する中で、全国のボートレース場と足並みをそろえて、ボートレース業界全体のイメージアップにも取り組んでいく必要がある。

### ④公共事業以外の代替

ボートレース事業は、モーターボート競走法において地方自治体に対して認められた収益事業であり、類似施設の活用などで代替することはできない。またハード整備でしか問題は解決できない。

### ⑤計画の進捗状況

市の計画とは関連がなく、適宜施設整備計画を進めていくこととなる。

## (2) 将来需要 (将来にわたる必要性の継続)

配点

評価  
レベル

得点

①地域の課題・需要は、長期間継続することが見込まれるか。

②将来の需要を十分に検証しているか (すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較)

5

5

5

#### 【評価内容】

① ②将来の課題、需要

将来を見据えた持続可能な戦略をもって、ボートレース業界全体で本場活性化を推進し

ていることから、本課題、需要は長期間継続するものと考えられる。

○ 本場活性化

- ・ ファンの来場促進により、将来にわたる安定的かつ継続的な収益確保のための投資が必要である。
- ・ 来場者が増加し、声援が増えることによるボートレーサーのモチベーション向上に繋がる。
- ・ ボートレーサーを目指すファンを増やすための迫力あるレースを観戦できる環境整備が必要である。
- ・ 現在の防災拠点としての位置づけも保ちつつ、市民の憩いの場として利用できるような広場となる。
- ・ 市関係局でのイベントの際など多目的に利用できる。

**(3) 市の関与の妥当性**

配点

評価  
レベル

得点

①国・県・民間ではなく市が実施すべき理由は何か（法令による義務等）

②関連する国・県・民間の計画はあるか（計画の進捗状況・今後の予定、国・県・民間との役割分担等）

5

5

5

**【評価内容】**

- ボートレース事業は、モーターボート競走法において地方自治体に対して認められた収益事業であり、北九州市公営競技局の責任のもと施設を整備する。
- 将来を見据えた持続可能な戦略をもって、ボートレース業界全体で本場活性化を推進している

**(4) 事業の緊急性**

配点

評価  
レベル

得点

①緊急に行わなければ生じる損失、早急に対応することによって高まる効果を十分検証し、的確に把握しているか（全ての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較）

②防災、危険回避、企業誘致の状況等から事業の実施が緊急を要するか。

③その他、早急に対応しなければならない特別な理由があるか。

5

5

5

**【評価内容】**

①緊急に行わなければ生じる損失、高まる効果 ②事業実施の緊急性

○ 西スタンド棟は築 26 年が経過し、各所の雨漏り対策や諸設備の改修、強風時には外壁パネルの一部がはがれるなど安全確保や施設維持管理の面から、緊急かつ抜本的改修が必要である。

○ 早期にボートレースパーク化へ着手することにより、より早くイメージアップ効果が得られる。

③その他の理由

○ ボートレース振興会のボートレースパーク化に対する助成金約 3 億円の活用が可能な時期であること。

2 事業の有効性（直接的効果、副次的効果）		配点	評価 レベル	得点
生活利便性 安全性の向上	①事業実施後の改善見込みを、「適切な成果指標」を用い、的確に説明しているか。（数値表現によらず、「定性的な目標」を設定した場合にはその明確な理由）	-	-	-
地域経済の活性化 産業振興	②事業効果により、どのように課題が解決されるかを論理的に検証しているか（すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較） ③事業予定地は、類似施設の配置バランス、交通の利便性、周辺施設の状況等から妥当か（第三者委員会等で検討が行われている場合はその検討状況等も記載）	30	4	24
<p>【評価内容】</p> <p>①②事業実施後の改善見込みと事業効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西スタンド棟の老朽化解消により、来場者の安全性を確保する。</li> <li>○ 既存ファンの定着と新規ファン層の拡大によって、本場入場者数が増加し、将来の売上拡大につながるるとともに事業の持続可能性も高まる。</li> <li>○ 保有資産の有効活用と地域貢献機能の拡充が同時に実施できる。</li> <li>○ 子どもの健全な成長や子育ての支援、スポーツや健康づくりの場の充実を図ることが可能である。</li> </ul> <p>③事業予定地の妥当性</p> <p>現在の事業地内で実施する。</p>				
3 事業の経済性・効率性・採算性		配点	評価 レベル	得点
(1) 建設時のコスト削減対策				
①構造、施工方法等に関するコスト削減対策の検討を十分行っているか（ランニングコストを下げるための工法までを含めた検討状況） ②代替手段の検討を行い、コストが最も低いものを選択しているか ③事業規模は、事業目的、利用者見込み、類似施設を検証し、決定したのか（すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較） ④工期は、事業規模・内容から見て適切か。 ⑤事業手法について民間活用（PFI等）の検討を十分行っているか。		15	5	15
<p>【評価内容】</p> <p>①②コスト削減対策の検討等</p> <p>「モーヴィ」屋内施設の整備については、外向発売所移転後の躯体を活用することでコスト削減を図る。</p> <p>「グリーン」の運用については、ランニングコストを下げるため、本場運営に係る業務委託の活用を検討する。</p> <p>今後、設計を進めていく中で、敷地条件である塩害や強風などの厳しい状況を念頭に置きながら、耐久性のある素材や工法等を検討していく。</p> <p>③事業規模は事業目的等を検証し決定したのか</p>				



- 事業費の財源は、ボートレース事業の収益金であり、令和4年度までに所要額が確保できる見込みである。なお、本事業の実施により、経営戦略において目標に掲げた一般会計繰出金への影響は生じない見通しである。
  - 施設整備に伴い「G1ダイヤモンドカップ（売上約90億円）1回」や「SGレース（売上約160億円）2回」等のビッグレース誘致に繋がる。
  - 施設整備に伴う効果として、経営戦略前期中期計画における5年間分の試算では、公営競技局としては収益金11億円の増となり、北九州市は一般会計繰入金8億円の増となる。
- ④工期について  
今後設計を進めていく中で、適切な工期設定を行う。
- ⑤事業手法について  
PFIの手法は、民間事業者が運営を行い、利益を生み出せることが前提である。ボートレース事業は、モーターボート競走法において地方自治体に対して認められた収益事業であり、民間事業者では実施できないため、今回PFI等の検討を行っていない。

(2) 管理運営の検討	配点	評価レベル	得点
<p>①整備後の管理運営コストを十分検証し、把握しているか（すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較）</p> <p>②管理運営の実施主体について詳細な検討を行っているか（PFI、指定管理者、民間委託、NPO、市民団体等の検討結果等）</p> <p><b>【評価内容】</b></p> <p>①管理運営コスト ②管理運営実施主体</p> <p>西スタンド棟改修については、管理運営はこれまでと同様、直営（市）であり、コストも同程度を見込んでいる。業務の一部（清掃、警備、設備保守点検等）を委託し、人件費の削減や運営の効率化に既に取り組んでいる。</p> <p>地域貢献エリアの新設については、管理運営を直営とすることは決定しているが、今後、委託業務の範囲などを検討し、コストの検証を行う。</p>	15	4	12
(3) 費用便益分析	配点	評価レベル	得点
<p>①費用便益分析の値（B/C）は国の採択基準値を超えているか。</p> <p>②便益項目、費用項目の設定は妥当か。</p> <p>③「感度分析」を行い、下位ケースのシナリオの値と、国の採択基準値の比較検証を行っているか。</p> <p><b>【評価内容】</b></p> <p>西スタンド棟改修は老朽化が進み、更新が必要な既存施設の整備を行うものであり、施設整備は必要不可欠であること、また地域貢献エリアの整備は経営戦略上及びボートレース業界全体の取組みとして実施するものであることから費用便益分析にはなじまない。</p>	-	-	-

(4) 事業の採算性 (ただし、収益を伴う事業のみ)	配点	評価 レベル	得点
<p>①事業は土地の売却等の収入を含めて構成されており、その実現性について問題はないか。</p> <p>②事業の収支予測は、客観的データを十分検証し、様々なリスクを勘案した上で作っているか (すべての検証データの提示、他都市・地域に比較できるデータがある場合はそれとの比較、累積収支黒字転換年等)</p> <p>③累積収支が黒字になるまでの期間は、市の財政状況等から勘案して許容できるものか。</p> <p>④PFI等、民間を活用した厳格な検証を行っているか。</p> <p>⑤民間を活用した複数のシナリオを前提とした検証を行っているか。</p>	-	-	-
<p>【評価内容】</p> <p>—</p>			
4 事業の熟度	配点	評価 レベル	得点
<p>①関係者等との事前調整は進んでいるか。(具体的な賛成、反対があればその状況)</p> <p>②事前に阻害要因は想定されるか。その場合、解消方法をどのように考えているか。(今後の見込み)</p> <p>③必要な法手続きはどのような状況か。(都市計画決定、環境影響評価等の状況、今後の予定)</p> <p>④用地取得で難航案件が想定されるか。</p>	5	5	5
<p>【評価内容】</p> <p>①関係者等との事前調整 ②阻害要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボートレース若松の施設全体を対象とした改修に関する基本構想及び基本計画の策定段階でボートレース振興会の本場施設改革改善相談室がアドバイザーとして参画</li> <li>○ 日本モーターボート競走会、日本モーターボート選手会等へのヒアリングを実施</li> <li>○ 施設整備の概要について、ボートレース若松周辺対策運営協議会にて意見交換を実施</li> </ul> <p>※地域の声：「地域貢献活動の推進に期待する」、「孫を連れて遊びに来たい」など</p> <p>③必要な法手続き 事業に先立ち必要となる法手続きは該当がなく、工事に必要なものについては、今後適宜手続きを行う</p> <p>④用地取得による難航案件 該当なし</p>			
5 環境・景観への配慮	配点	評価 レベル	得点
<p>①「環境配慮チェックリスト」による点検は十分行っているか。</p> <p>②環境アセスメントは必要か (必要な場合はその結果または今後の予定)</p> <p>③事業実施により、周辺環境・景観にどのような影響を及ぼすことが考えられるか。</p> <p>④環境保全の達成に向けて、どのような環境配慮・景観配慮の手法を採用しているか。</p>	5	5	5

【評価内容】

① 環境への配慮

- 公営競技局独自で定めた「公営競技局SDGs経営宣言」の取組に沿って創エネや省エネ設備の導入、フロンガス排出抑制等環境負荷の低減に積極的に取り組む。
- CASBEE北九州の上位評価を目指す。

② 環境アセスメント（北九州市環境影響評価条例）の対象事業（大規模建築物：延べ床面積10万m<sup>2</sup>以上、高さ100m以上）には該当しない。

③④ 景観への影響、配慮

- 北九州市景観づくりマスタープランに基づくものとする。
- 近寄りがたさ、閉鎖的等の負のイメージを払拭し、本場周辺環境に好印象をもたらすような夜間のライトアップを含め、地域に親しまれる景観の形成に積極的に取り組む。
- 太陽光発電等の環境対策について考慮しながら、施設整備を行う。

【内部評価】

評価の合計点	91 / 100点	評価結果	事業を実施すべき
評価の理由及び特記事項	<p>ボートレース事業は、地方財政の改善を図ることなどを目的に、モーターボート競走法に基づき実施されている。</p> <p>本市のボートレース事業であるボートレース若松は、独立採算で企業会計を設けて実施し、その収益の一部を一般会計へ繰り出している。</p> <p>この一般会計繰出金は、本市の市民生活の充実・利便性の向上等に寄与しており、今後も安定的かつ継続的な確保が求められている。</p> <p>また、平成30年4月からは地方公営企業法の全部を適用するなど、更なる経営の強化を図りながら事業を実施しているところである。</p> <p>今回検討している「ボートレース若松施設整備事業」は、主に、築26年が経過し、設備の更新時期を迎え、建物の老朽化が進行している西スタンド棟の改修を行うものである。</p> <p>また、年間20万人以上の来場者の安全の確保はもとより、新たなファン層を開拓するために、魅力的な集客施設としての整備が必要である。</p> <p>加えて、ボートレース業界では、多くの人が集う、地域にとってかけがえのない場所を目指す「ボートレースパーク化」を推進しており、ボートレース若松の経営戦略に掲げる「親しまれるレース場」の実現に向け、子供から大人まで幅広い世代を対象にした地域貢献エリアの新設を行うものである。</p> <p>施設整備の財源は、ボートレース事業の収益により令和4年度までに確保できることが見込まれ、税等の一般財源や企業債は予定していない。また、地域貢献エリアの新設にあたっては、遊休スペースとなっている駐車場の一部を有効活用することとしている。</p>		

	<p>なお、公共事業評価1の調整会議では滞在時間の長い集客施設としての機能整備を行うこと、また、環境への配慮やランニングコストも考慮した施設整備を実施すること、との意見があった。今後これらの意見については、整備計画を進める中で検討していきたい。</p> <p>今回の施設整備は、ボートレース事業継続に重要な投資であるとともに、ビッグレースの誘致にもつながり、収益と繰出金の双方に増加効果が見込まれる。以上を踏まえ、引き続き西スタンド棟他の大規模改修と地域貢献エリア（「モーヴイ」「グリーン」）の新設に関する整備計画のとおり事業を進めていく。</p>
<p>対応方針案</p>	<p>計画どおり実施</p>